

建築・インテリア領域
准教授 畑中 久美子

専門分野

土壁の研究と実践
デザインビルド
環境共生建築
パウビオロジー

学位・資格

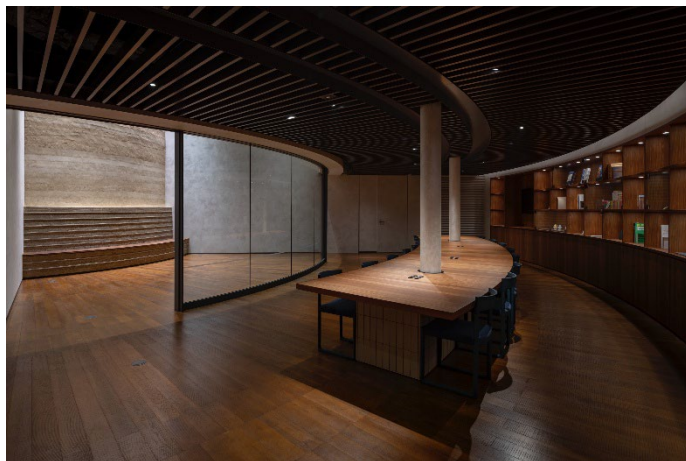
博士（学術）
一級建築士

研究者情報
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

土を使った建築を研究・実践しています。土壁は製造エネルギーが低く、どこにでもある自然素材で、日本建築で土壁は古来から用いられています。土壁に厚みがあればあるほど蓄熱体として活用することができます。この特徴を利用して冷暖房負荷が低い自然素材の建築が実現できることがわかりました。設計段階からシミュレーションを用いて熱性能を予測し、土壁を現代建築に用いる研究と実践を行っています。



O社ギャラリー 現場土を用いた版築ベンチと現場土を多治見で焼いたタイル

最近の活動紹介

教育活動／研究活動／地域貢献活動

日本における土・石積み構法に関する研究
兵庫県丹波篠山市の灰屋の調査

丹波篠山市には、築百年程度の土・石積み壁で構成された小屋が数多く現存します。それは灰屋（はんや）と呼ばれており、黒豆の栽培時に必要な肥料となる焼灰を作る小屋として使われています。灰屋は、農家が自ら作った事例もあり、耐用年数が長いものも多く存在します。本研究では、土・石積み構法の壁が現代建築における土壁構法の選択肢となるための基礎資料となることを目標として、丹波篠山市の灰屋について建物の構成やルーツ、その利用方法を調査し、その建築的特質を明らかにするものです。



授業紹介／ゼミ生による教員紹介

現場での五感を通した実践的教育/永井のぞみ

畑中先生は建築専門で、特に版築や土壁、自然素材を用いた環境共生住宅、商業施設設計など、多岐にわたる建築活動をされています。ワークショップで参加者と共につくる「参加型建築」も実践されています。

授業では、建築分野だけでなく泥だんご作りや車いす体験などユニークな体験もできます。先生の授業やゼミの最大の特徴としては、フィールドワークで、現場で五感を通して実践的な学びを得られます。学生一人ひとりの興味や理解度に合わせて丁寧に指導し、小さな疑問にも的確なアドバイスをくれるため、安心して研究に取り組めます。



信長塀の3Dスキャンの様子